

# 街を行く

第80回 三島 Mishima

## 立地と寿司は絶品です

今回は静岡県三島の街を訪れました。三島と言えば、「江戸時代に東海道の宿場町として栄え…」と始まるのが通常のところ、小生には「おせん」という言葉が真っ先に思い浮びます。若い方々はご存知ないかもしれませんが、映画「男はつらいよ」シリーズの主人公渥美清扮する“フーテンの寅さん”の啖呵売（ごく当たり前の品物を巧みな話術で客を楽しませ良い気分させ売りさばく商法）口上にある「三島のおせん」というフレーズが今も耳に残っているのです。

話を戻しましょう。三島は新幹線の停車駅として知られ、この点でお隣の沼津と差を付けています。修善寺に向かう伊豆箱根鉄道駿豆線の始発駅という点で観光誘引力の強さもあるでしょう。代表的観光資源には「三嶋大社」があり、歴史的由緒、建物の風格、境内の規模、どれも“程よい”具合です。何より駅から要所までの道程が絶妙で、市中心部や商店街を抜けて散歩するにはもってこいの距離感。筆者はこの“丁度よさ”こそが街づくりの基本だと思っています。その証拠に三島にはほんとうに沢山の人が集まり参拝や買物客で賑わっています。

全国に多数ある名所旧跡系地域において、立地（アクセス）は街が繁栄するか否かを定める最重要ポイントと言えます。皆さんは「さて行くぞ！」と意気込み観光地に向かったものの、勢いが良かったのは電車に乗るまでで、最寄り駅から観光地を繋ぐバスを待つ行列を前に気力が削がれて、帰りには「もう沢山！」となった経験があるかと思いま

す。観光スポットの中身はともかく、アクセスがスムーズだと「また行きたいな」との評価が上がるものです。とは言え便が良すぎても趣が損なわれてしまうので、悩ましいところですが。

名所旧跡は、今さら場所は移動できず、鉄道を伸ばしてくるのもむずかしい。「不便こそ趣」として逆に楽しむ人も中にはあるかと思いますが、普通はそこまで風流にはなれません。観光インフラの整備は、地方都市の生き残りのためには急務と言えるでしょう。

小生は三嶋大社参拝の帰り、商店街主催のイベントに出くわしました。特別な出し物があったわけではなく、ただ地元の人が踊っているありきたりなもので、この類は空回りに終わるケースも多いのですが、意外にも大盛り上がりでした。これもきっと立地のおかげでしょう。観光名所と最寄り駅を結ぶ商店街ですから、否応なしに観光客の目に止まりますし、観光客のほうも“行列疲れ”せずイベントを楽しむ余裕が充分あるということです。

最後は、小生が楽しみにしている「地元飯」です。沢山の鰻屋が目に入りましたが、小生はそれを尻目に三嶋大



三嶋大社の境内、程よい広さと程よい人の数で、参拝客の列すら美しくみえる大社と商店街のアクセス距離が絶妙でイベント効果も高い

社のそばにある寿司屋に入りました。四代目と言う店主が握る地のネタは最高でしたよ。お酒に良く合います。

### 南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発（旧松下興産）の代表取締役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役に就任。